

株式会社テクノマセマティカル

平成21年3月期 < 第9期 > 第2四半期決算説明会



平成20年11月19日

ご注意: 本資料は実際の説明会で使用されたものの抜粋です。あらかじめご了承ください。

Agenda

1. 事業概要
2. 第2四半期決算の概要
3. 主要な売上指標の推移
4. 通期業績見通し
5. Next 2011中期事業計画について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について

新しい独自の
技術を生み出
し、それらを用
いて

標準規格に準
拠した映像・音
響関連の製品・
技術を開発し

国内外の電機
メーカー、半導体
メーカーに

ライセンス提
供しておりま
す。

高圧縮率、
高画質、
低消費電力、
が実現できるデータ圧縮技術を開発、提供し続けます。

1-2 当社の基幹業務について

2000年6月設立当初から

“アルゴリズム開発” をビジネスの基幹と位置付け

DMNA

(Digital Media New Algorithm)

テクノ マセマティカルが開発したアルゴリズムの愛称

画像/映像

音響/音声

DMNAを圧縮／伸張処理に応用

ソフトウェアIP

ハードウェアIP

単機能LSI

ネットワーク事業

1-3 当社事業の特徴

1. 独自技術により、差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス・ロイヤルティモデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像 / 音響製品

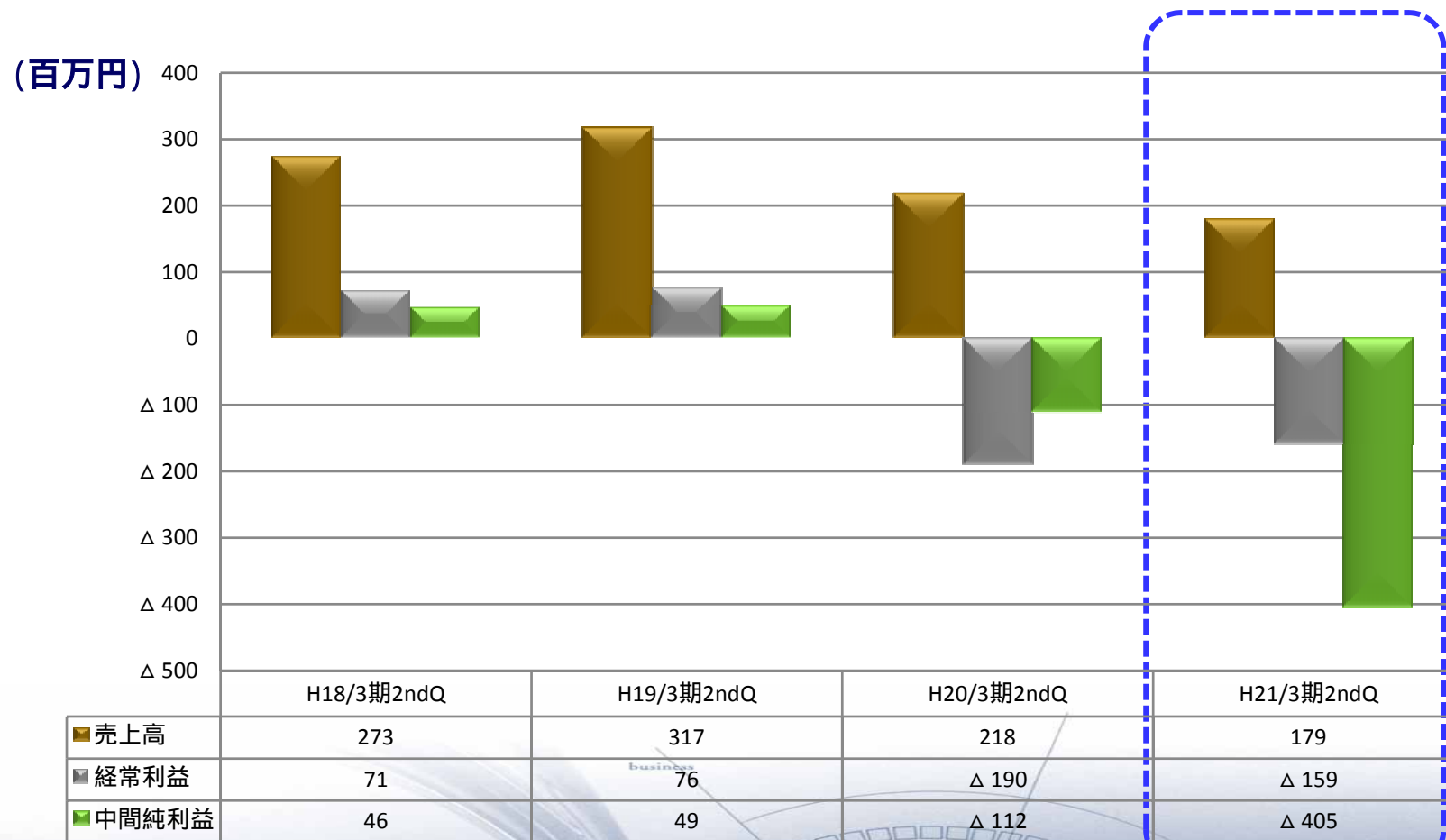
4. 業容拡大による収益力の向上

売上・利益の絶対額増加、3本柱の確立

2-1 業績の推移

◆ 売上高 前年同期間比 マイナス17.9% 四半期純損失 405百万円

◆ 原価率の高いハード部門新規案件の減少で原価率改善し、減収ながら経常損失幅は縮小



2-2 損益計算書 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	当第2四半期（累計） （H21/3期2ndQ）	構成比	対前年同期間 増減比	前年同期間 （H20/3期2ndQ）
売上高	179	100.0%	17.9%	218
売上総利益	99	55.0%	5.7%	93
販売管理費	266	148.4%	7.4%	287
営業利益	167	93.4%	-	194
経常利益	159	88.9%	-	191
四半期純利益	405	226.2%	-	112

2-3 貸借対照表 (平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	2008/9末	構成比	対前期末比 増減	2008/3末
流動資産	3,709	95.8%	▲390	4,099
固定資産	161	4.2%	▲26	187
資産合計	3,870	100.0%	▲416	4,286
流動負債	53	1.4%	▲10	63
固定負債	-	-	-	-
純資産	3,817	98.6%	▲406	4,223

2-4 キャッシュ・フロー計算書推移

(単位:百万円)	H20/3期 第2四半期	H21/3期 第2四半期	対前年 同期間比増減	平成20年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	49	23	26	101
投資活動による キャッシュ・フロー	6	4	2	8
財務活動による キャッシュ・フロー	0	—	0	12
現金及び現金同等 物の増減額	56	27	29	97
現金及び現金同等 物の期首残高	3,615	3,518	97	3,615
現金及び現金同等 物の四半期末残高	3,558	3,490	68	3,518

2-5 当初業績予想との差異について

(単位:百万円)	期初予想	実績	差異金額	増減率
売上高	320	179	141	44.1%
経常利益	29	159	130	-
四半期純利益	19	405	386	-

プラス面

◆今後の成長が期待できる動画配信分野で当社オリジナルコーデック DMNA-V 2 が採用された。

マイナス面

◆特別損失（123百万円）、税調整（124百万円）などが発生。



- 特別損失は単機能LSI関連資産の償却
- 税調整は繰延税金資産の費用計上

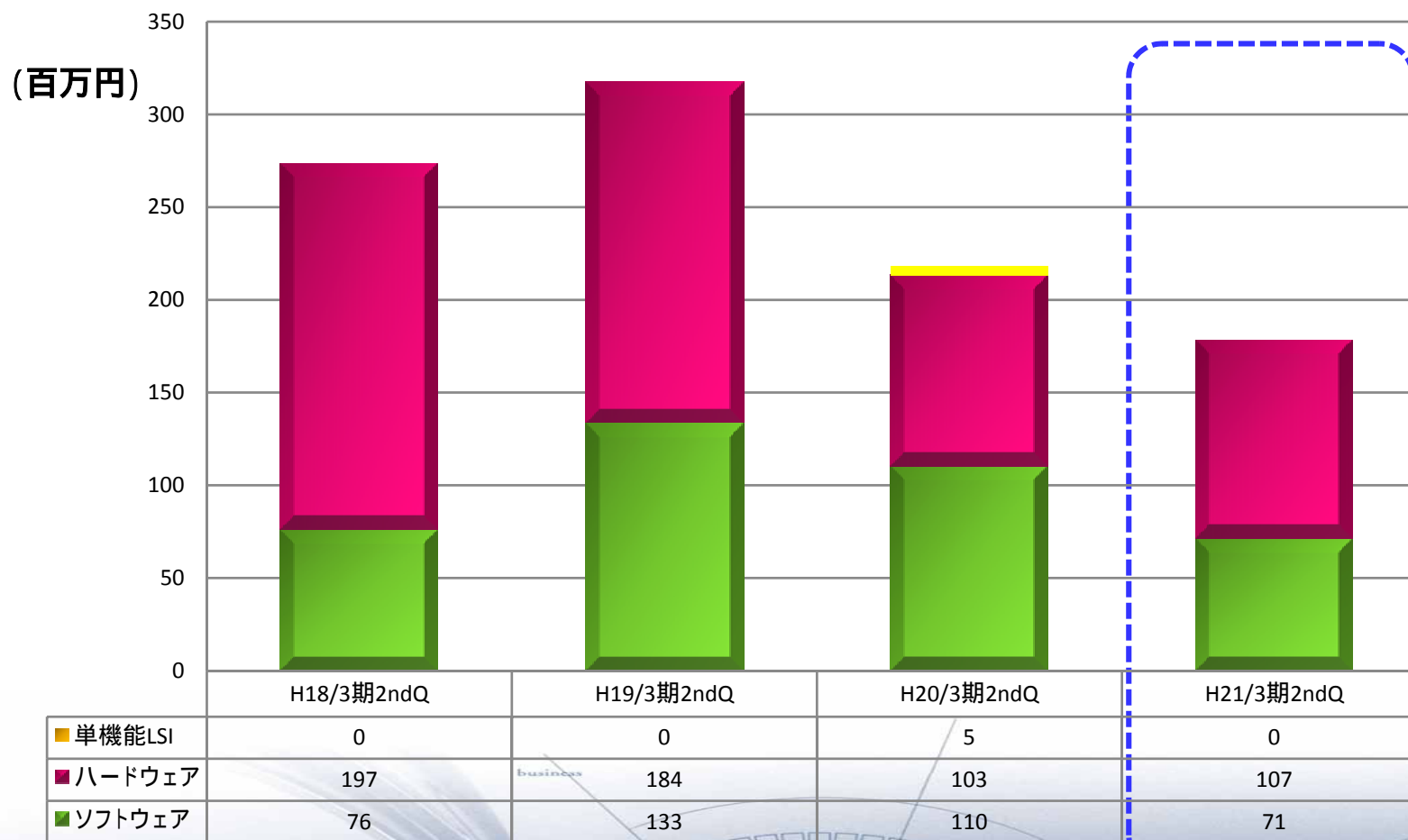


いずれも一過性の
もので、今後の損
益に影響残さず

3-1 売上の内訳(事業区分別)

◆ソフトウェアは前年同期間比大幅減・・・案件数はそこそこ、小規模案件多い

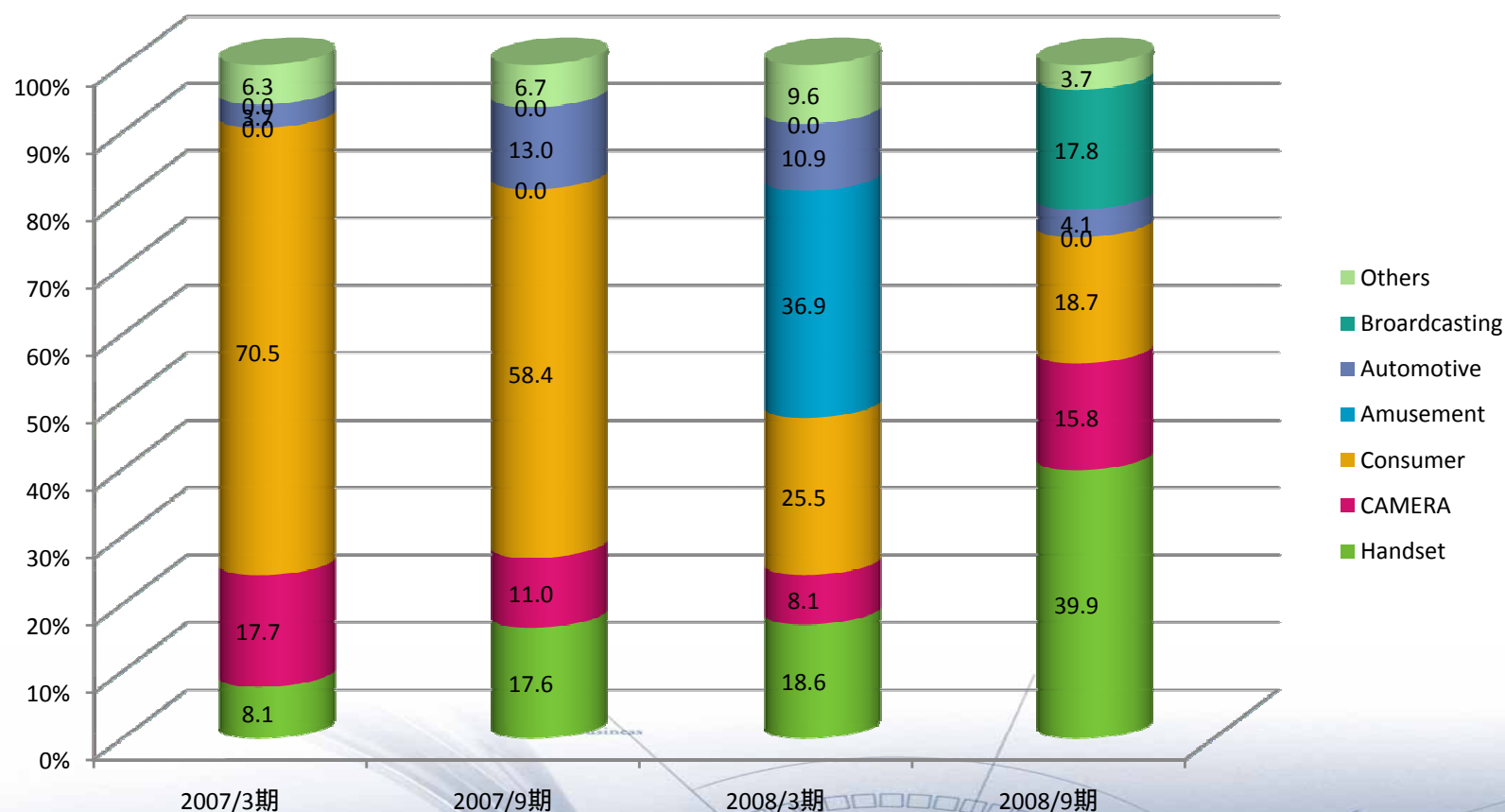
◆ハードウェアは前年同期間比横ばい・・・ランニング・ロイヤリティが下支え



3-2 売上の内訳(対象市場別)

◆携帯電話、カメラ関連の構成比が増大

◆動画配信システムをBroadcastingとして区分け



4-1 通期業績見通し

(単位:百万円)

	当期予想	増減	増減率	前期実績
売上高	550	+48	+9.6%	502
経常利益	218	+18	-	236
当期純利益	466	-326	-	140

ソフトウェアライセンス = 新規開発した製品の拡販

ハードウェアライセンス = DMNA - Vシリーズの販売強化

単機能LSI = 開発方針の大幅な見直し途上

4-2 主な増減要因

< 売上高 >

ソフトウェアライセンス事業

ワンセグ、カメラ（監視カメラ含む）関連で底堅い需要を見込む

・・・顧客の開発案件・量産計画の先延ばし懸念は残る

ハードウェアライセンス事業

HD対応案件のニーズは堅調ながら実需は未だ黎明期

・・・MPEG-2（Enc/Dec）、H.264（Enc/Dec）、マルチデコーダ

単機能LSI事業

LSI事業の基盤再構築中

・・・スケールLSIで顧客層の拡大を目指す

4-3 平成21年3月期における課題

1. 既存製品を販売できる体制の充実

人員補強 ほぼ計画どおりに確保
代理店との関係強化 未だ不十分ながら改善傾向

2. 独自技術製品の開発

高機能な独自技術製品で新たな市場を開拓
DMNA-V2が動画配信システムに採用された

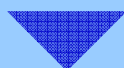
3. 単機能LSI事業の本格的な立ち上げ

スケーラLSI、超解像フィルタ、3Dなどの画像処理の
補助機能LSIの商品化により顧客開拓進める

4. 「Next 2011」へ向けてネットワーク事業の展開を推進

5-1 Next 2011

平成21年3月期



平成22年3月期



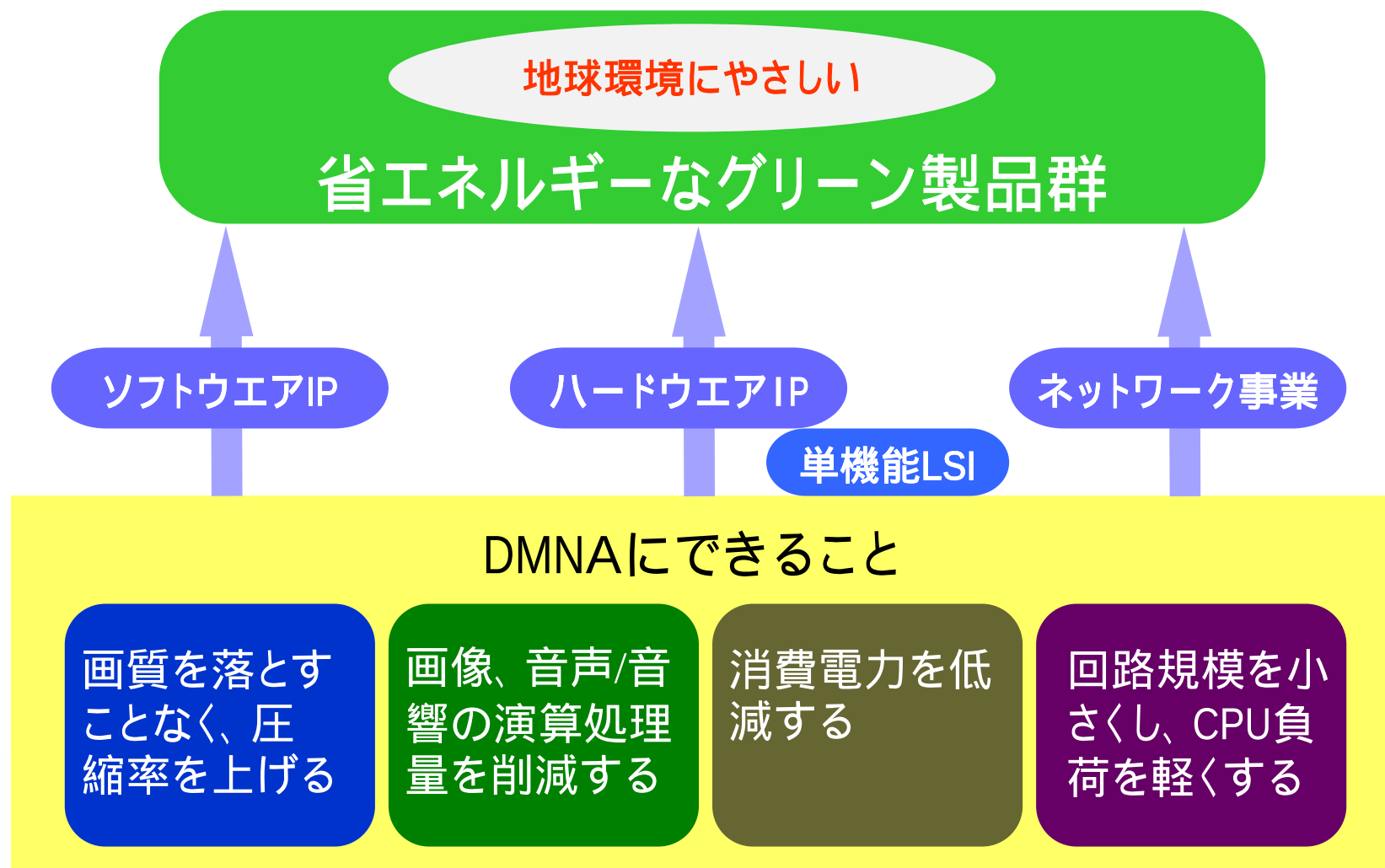
平成23年3月期

← 中期3ヶ年計画の初年度

前事業年度（平成20年3月期）
までに開発したハードウェア、
ソフトウェアをビジネスの基盤
にして、単機能LSI, ネットワー
ク事業に展開していく。

「開発」「販売」を狙いの分野
に集中させる。

5-2 中期ビジネス拡大への布石



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 管理部

TEL: 03-5798-3636 E-mail: ir@tmath.co.jp